

IV おわりに

1. 時期と集落の変遷

本調査では SD15 出土遺物を主に 12～13 世紀代の集落遺構が検出された。最も降るとみられるのは SD15 出土の口ハケ皿 9、10 で 14 世紀初頭まで降る可能性がある。遡るのは 11 世紀後半代の黒色土器 161 である。いずれもごく少量の出土であり、12 世紀になって集落が整備されたと考えられる。これは東側の 3 次、4 次、21 次の集落遺構が 11 世紀代で途切れることや西側の 2 次、5 次や本調査を含めた地点で 12 世紀から 14 世紀代まで集落が継続していることも連動していると考えられる。その中でも本調査周辺は密度から中心的な位置を占めている。

また、八条院領の動向からみてもこの時期に関連した活動が考えられる。SD15 の掘削に要する労働力の集約とともに、多量の中国陶磁器が出土したことや畿内系の土鍋 184 や瓦器碗 154、200 など出土遺物からも豊かな財力やネットワークが背景にあると思われる。

SD15 の掘削は SE127 や SE221 を破壊していることから、集落が整備された後に再整備されたと考えられる。集落の拡大とともに集落間の水運や水利施設の整備を図ったものであろう。その後、集落の移転とともに SD15 は埋没し周辺は水田化したとみられ、SD15 を切る小水路が検出される。

2. SD15 について

a. 幹線水路としての存続

SD15 はその規模から幹線水路の機能を備えていたと思われる。上述のように 12 世紀代に条里に合わせ掘削し、14 世紀初頭には埋没し、その機能を失う。現在の主要道路大野二丈線より北側では現代までに水路が縦横に完備され、SD15 の延長方向にも 8 次調査で溝が検出されている。しかし、SD15 の延長方向には現代まで存続している水路が重複しているとみられるので安易に結ぶのは危うく、同時期の抽出には慎重を要する。特に大野二丈線から北側では検出された SD15 の延長方向の溝が現代の水路や道路と同じように東側に振れて弯曲し、SD15 の延長と異なるなど検討を要す。中世の幹線水路が現代まで踏襲される事例があるが、SD15 の東側 1 町に現代の幹線水路は通っている。

集落の廃絶後の SD15 の存続は不確実であるが、以後の遺物はみられなくなることから機能を終えたとみられる。

b. 水運の利用、護岸、舟着場、「出し」について

SD15 には幹線水路としての機能のほか、水運の機能も有していたと思われる。遺構の説明で記したように SX130、131 で検出された雁木状の石列は舟着場の可能性がある。近世まで継承される Fig.42 で推定した護岸設備や 12 世紀代まで遡る水流を制御した「出し」類など当時の技術力によって念入りに護岸、水制を整え水防に備えている。SD15 の掘削にかかる労働力の集約、集落、水利の計画的な整備、多量の中国陶磁器を持ち得る財力など野苳荘を想定する要素がみられる。

参考文献「図録農民生活史辞典」柏書房株式会社 1991

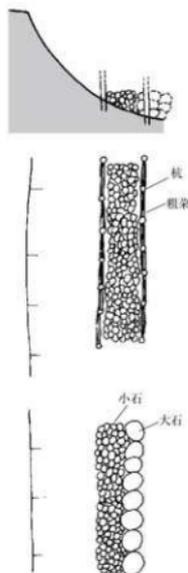


Fig.42 SD15 護岸復元図



Fig.43 第5次、27次遺構配置圖 (1/1,000)

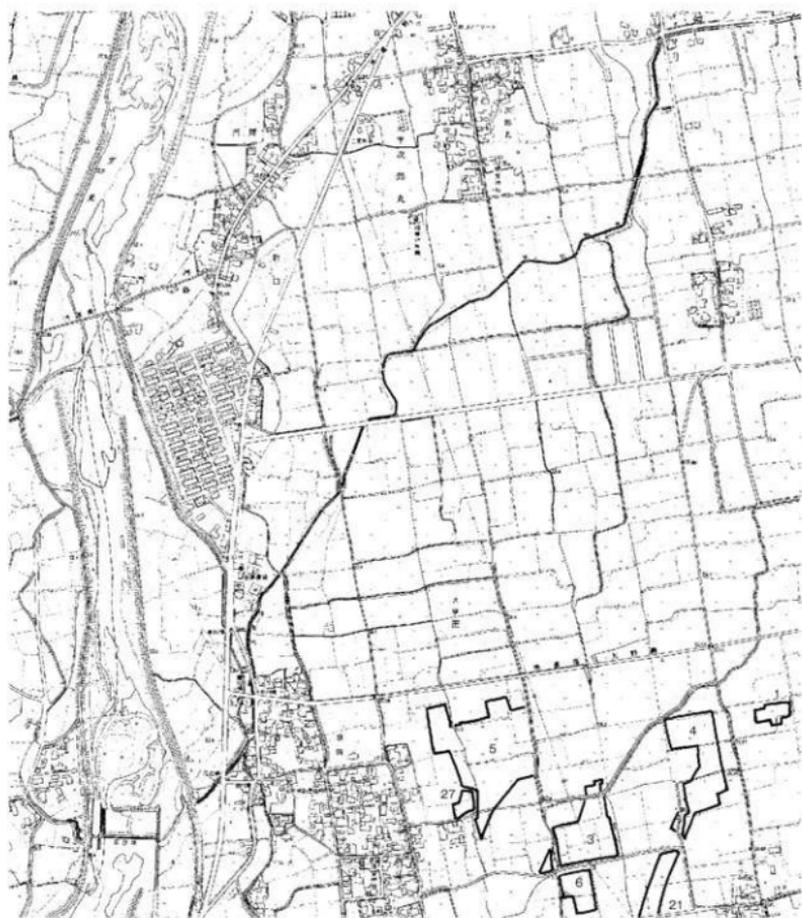


Fig.44 昭和43年周辺地形図(1/8,000)

(番号は調査回数)



ph.1 SD15 護岸、水制施設検出状況（南から）



ph.2 SD15 西岸護岸集石検出状況（南東から）



ph.3 田村 27 次調査地点周辺



ph.4 東半部 (2区) 検出状況 (南から)



ph.5 SD15 北端部護岸集石検出状況 (南から)



ph.6 SD15 西岸護岸集石 (SX130、131 ~ SE221 付近)



ph.7 SX126 検出状況 (南東から)



ph.8 SX220 検出状況 (南西から)



ph.9 SX130、131 検出状況 (南西から)



ph.10 SX130、131 と下部の集石検出状況 (南東から)



ph.11 SD15 西岸護岸列石 (SX130、131～SE221 付近)



ph.12 SX130、131 下部雁木状石列 (南東から)



ph.13 SX130、131 下部雁木状石列 (東から)



ph.14 SX130、131 下部雁木状石列 (東から)



ph.15 SE115 桶井筒検出



ph.16 SE127 上部 (SX126 の集石が被る)



ph.17 SE127 裏込石検出



ph.18 SE127 方形井戸枠、井筒 (曲物)



ph.19 SE221 検出 (上部にSD15 護岸集石が被る)



ph.20 SE221 井筒曲物検出



ph.21 SD15 土層ベルト (鉄滓流入状況)



ph.22 鍛冶炉 SX251 検出状況



ph.23 白磁合子 59 (SD15 出土)



ph.24 褐軸陶器 24 (SD15 出土)



ph.25 墨書土器 55 (SD15 出土)



ph.26 須恵質甕 191 (SD15 出土)



ph.27 転用甕 58 (SD15 出土)

| ふりがな | たむら19 | | | | | | | |
|----------------|---|-------|------------------------|-------------|-----------------------|---------------------------|--|-------|
| 書名 | 田村19 | | | | | | | |
| 副書名 | 田村遺跡第19次調査の報告 | | | | | | | |
| シリーズ名 | 福岡市埋蔵文化財調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第1411集 | | | | | | | |
| 編著者名 | 荒牧宏行 | | | | | | | |
| 編集機関 | 福岡市教育委員会 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒810-8621 福岡県福岡市中央区天神1-8-1 TEL 092-711-4667 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 2021年3月25日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 発掘期間 | 発掘面積 | 発掘原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| たむらいせき 田村遺跡 | ふくおかけんふくおかし 福岡県福岡市 さわらくたむら 早良区田村 三丁目757番 1,755番1地内 | 40137 | 0317 | 33° 32' 27" | 130° 19' 49" | 20180601 ～ 20180906 | 858 | 公民館建設 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 | |
| 田村遺跡第27次 | 集落跡 | 中世 | 大溝（幹線水路）、護岸、水制施設、掘立柱建物 | | 輸入陶磁器、陶器、土師器、瓦器、土鍋、石鍋 | | 大溝から護岸施設、水制施設の「出し」、舟着場の可能性がある雁木状の石段が検出された。 | |
| 要約 | <p>第5次調査で検出された中世集落の延長部分である。今回の調査では11世紀後半～14世紀初頭までの集落遺構が考えられるが、活動の中心となった時期は12、13世紀代である。検出された主な遺構のなかで灌漑と水運に利用したと考えられる大溝、それに付随した護岸施設と集石、水流調整施設の「だし」2か所、舟着場の可能性がある雁木状の石段が特筆される。大溝からは護岸の集石に混じって多量の遺物が出土した。その中には宋代中国陶磁器も多く、畿内系の瓦器や土鍋も含まれる。近くに皇室領である「野芥莊」の遺称地が在り、関連が注目される。</p> | | | | | | | |

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第1411集

田村 19

—田村遺跡第27次調査の報告—

2021年（令和3年）3月25日

発行 福岡市教育委員会
福岡市中央区天神1-8-1

印刷 新交社
福岡市中央区地行1丁目11-3